

市立博物館の催し

問 市立博物館（下白銀町、☎ 35-0700）

▶ 円山応挙筆
「返魂香之図」



市立博物館 企画展1 「弘前の文化財」

令和3年の市文化財指定を記念して、円山応挙筆「返魂香之図（はんごんこうのず）」を当館初公開するほか、当館に収蔵されている郷土を代表する貴重な「弘前の文化財」を紹介しします。
併せて会期中は無形文化財の披露や関連イベントを開催します。
この機会にぜひ郷土の歴史や文化を堪能してみませんか。

▼とき 4月2日（土）～5月8日（日）の午前9時30分～午後4時30分（4月23日〈土〉のみ午後7時30分まで延長）

▼休館日 第3月曜日（4月18日）

▼観覧料 一般＝300円／高校生・大学生＝150円／小・中学生＝100円

●高岡の森弘前藩歴史館との共通券 一般＝420円、高校生・大学生＝210円、小・中学生＝140円

※障がい者、65歳以上の市民、市内の小・中学生や外国人留学生、ひろさき多子家族応援パスポートを持参の人は無料。

▼常設展 「ひろさきの歴史と文化～原始から近現代へ～」

館内 イベント

▼参加料 無料（ただし別途観覧料が必要）
▼ところ 市立博物館ホール

内容	とき	参加方法など
①獅子舞・獅子踊演舞	4月9日（土） 午前10時～午後3時	予約不要
②古武道講座・演武	4月16日（土） 午前10時～11時	
③弘前乃怪による怪談語り ※中学生以上のみ参加可。	4月23日（土） 午後6時～7時30分	一人につき、③～⑤から一つのみ申し込み可。 ▼定員 各50人（先着順） ▼申し込み方法 4月6日（水）以降、市立博物館（☎ 35-0700）へ。
④東雅夫講演会	4月24日（日） 午後2時～3時	
⑤久渡寺住職による講話	4月29日（金・祝） 午後2時～3時	

市立博物館 特別企画展1

「歌川広重 二つの東海道五拾三次」
開会式でテープカットをしませんか



▼とき 5月21日（土）、午前9時30分～9時50分

▼ところ 市立博物館ホール

▼対象 市内在住で市内の小・中学校に在学している児童・生徒＝2人

▼応募方法 5月8日（日・必着）までに、往復はがき（氏名〈ふりがな〉・学校名・学年・保護者氏名・住所・保護者連絡先を記入）を市立博物館に郵送または持参してください。

▼その他 会場までの交通費は自己負担／応募には保護者の同意が必要／はがき1枚につき1人応募可／応募者多数の場合は抽選／抽選結果は5月9日以降、応募者全員に通知

問 市立博物館（〒036-8356、下白銀町1の6、☎ 35-0700）

博物館の親子鑑賞会

市内の小・中学生と一緒に来館した保護者1人の観覧料が無料になります。この機会にお得に鑑賞しませんか。

▼とき ①4月10日（日）まで／②7月23日～8月14日／③令和5年1月14日～22日

※令和3年度までの親子鑑賞会と実施日や内容が異なります／市内の小・中学生はいつでも無料です。名札など在校を確認できるものをお持ちください。

ベテランズセミナー

▼とき 4月21日（木）
午前10時～11時
▼ところ ヒロロ（駅前町）4階市民文化交流館ホール
▼内容 太宰治と弘前
▼講師 鎌田龍さん（太宰治まなびの家 解説員）
▼対象 おおむね



60歳以上の市民＝30人程度（先着順）

▼受講料 無料

▼申し込み方法 4月18日（月）までに、電話、ファクスまたはEメール（住所〈町名まで〉・氏名〈ふりがな〉・年齢・電話番号を記入）で申し込みを。
問 中央公民館（☎ 33-6561、F 33-4490、E chuuoukou@city.hirosaki.lg.jp、火曜日は休み）

緑の相談所 4月の催し

【展示会】
●盆友会 春の盆栽展 23日（土）～30日（土）の午前9時～午後4時
▼観覧料 無料
【弘前城植物園で見られる花】ウメ、十月桜など
問 緑の相談所（弘前公園内、☎ 33-8737）

Hirosaki Art Times

ヒロサキ・アート・タイムズ #13

弘前れんが倉庫美術館に関連する情報を連載しています。

問 弘前れんが倉庫美術館（☎ 32-8950）

H <https://www.hirosaki-moca.jp/>

展覧会を作るには

——裏側の「見えない」工夫



美術館の展覧会がどうやって作られているか、知っていますか。通常、展覧会の企画を考えるのは「学芸員」や「キュレーター」と呼ばれる専門家です。複数のアーティストのバリエーション豊かな作品を展示するか、一人

の作品をじっくり紹介する個展にするか、時勢も鑑みながら開催する何年も前から検討が始まります。当館では、今活動しているアーティストの作品を展示することが多く、アーティストが実際に弘前を訪れての調査や、市民へのインタビューなどを行い、弘前ならではの新しい作品を制作することもあります。

現代のアート作品は、絵画や彫刻だけでなく、写真、映像、空間全体を作品にするもの、パフォーマンスを含むものなど多種多様です。作品をより魅力的に見せるためには、配置以外に

も展示台の素材やサイズ、色、ほかの作品との距離、照明にも気を配る必要があります。展示設営の技術的な側面を支えるテクニカル・ディレクターは、機材や配線をどのように隠すかなど、鑑賞者がきちんと作品と向き合えるように、見えない部分にも工夫を凝らします。当館は100年前に建てられた酒造工場を改修してできた美術館なので、建築の持ち味や雰囲気を活かすことも大事です。

工夫が凝らされた展示空間を、実際に足を運んでぜひ体験してみてください。

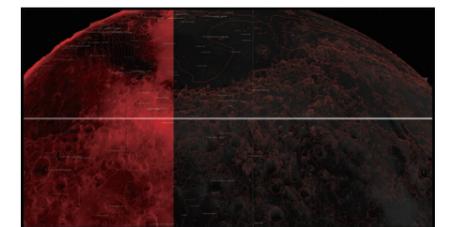
2022年度春夏プログラム

池田亮司展

▼とき 4月16日（土）～8月28日（日）の午前9時～午後5時（4月26日、5月3日、8月2日を除く火曜日は休館）
▼ところ 弘前れんが倉庫美術館（吉野町）
▼観覧料 一般＝1,300円、大学生・専門学校生＝1,000円

※次の人は無料。年齢や住所を確認できるものをお持ちください。高校生以下／市内の外国人留学生／65歳以上の市民／ひろさき多子家族応援パスポート持参の人／障がい者と付き添いの人（1人まで）

国際的に活躍する作曲家／アーティストの池田亮司さん（1966年岐阜県生まれ）の個展を開催します。音やイメージ、物質、物理現象、数学的概念などのさまざまな要素を取り入れ、見る人の感覚を揺さぶる作品を展示します。



池田亮司《data-verse 3》2020年 ©Ryoji Ikeda Studio